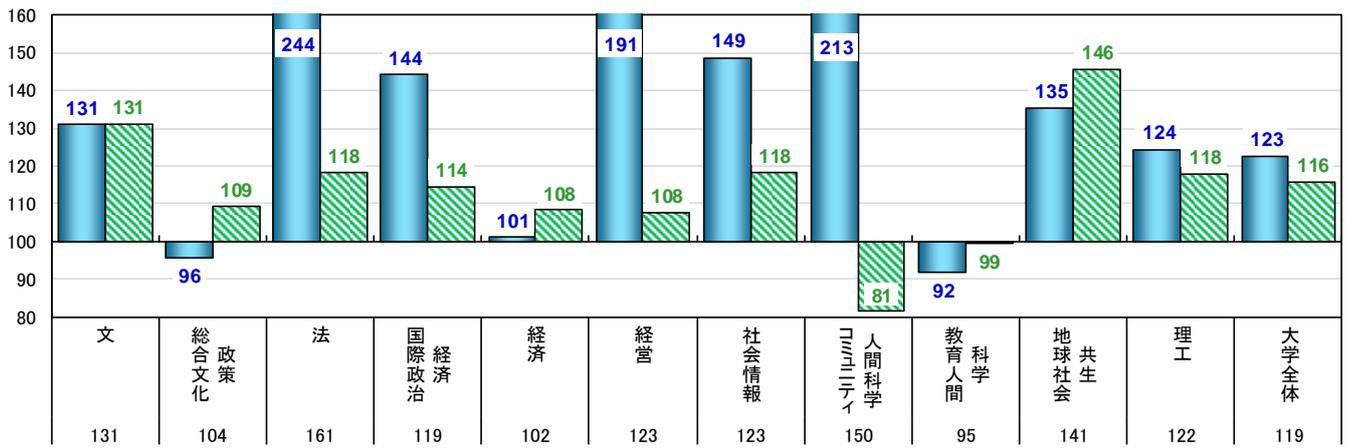


青山学院大：入試改革 2 年目、周知が進み大幅増加

一般：+4,558 人 共テ：+3,158 人

※前年度の志願者数を100とする指数
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



主な入試変更点

学科新設：法…(ヒューマンライツ)
 試験会場：＜全学部＞…東京、仙台、横浜、名古屋、岡山、福岡→東京、横浜、名古屋、福岡
 併願パターン：法＜全学部＞…(法)のみ→(法)と(ヒューマンライツ)の併願可
 募集人員：文(フランス文)…＜全学部＞10人→15人、＜共テ併用・個別A＞45人→40人
 (比較芸術)…＜共テ併用・個別A＞43人→45人
 法(法)…＜全学部＞70人→80人、＜共テ＞20人→10人、
 ＜共テ併用・個別＞100人→80人、＜共テ併用・個別B＞80人→25人
 入試科目：文(日本文)＜共テ併用・個別B＞…＜共テ＞国+外、＜個＞国→＜共テ＞外、＜個＞国
 (フランス文)＜共テ併用・個別A＞…＜共テ＞国+歴公+外、＜個＞総合問題
 →＜共テ＞歴公+外、＜個＞総合問題
 国際政治経済＜共テ併用・個別A＞…＜共テ＞国+外+(歴公 or 数① or 数②)、＜個＞論述+総合問題(自学科+他学科)
 →＜共テ＞国+外+(歴公 or 数① or 数②)、＜個＞論述・総合問題(自学科)
 ＜共テ併用・個別B＞…＜共テ＞国+外、＜個＞論述+総合問題(自学科+他学科)
 →＜共テ＞国+外、＜個＞論述・総合問題(自学科)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、7,716人(119)の大幅増加で4年ぶりの増加。前年度はそれまでの一般方式・個別学部日程を経済と理工＜個別A＞を除いて、共通テスト併用方式に変更したが、コロナ禍の中で周知が広まらず30%以上の大幅減少だったが、これに対する反動が見られた。学部別では、教育人間科学(95)がやや減少だったが、これを除く10学部は増加。特に、法(161)は激増、コミュニティ人間科学(150)、地球社会共生(141)、文(131)の3学部は30%以上の大幅増加。方式別では、一般方式が4,558人(123)、共通テスト利用方式が3,158人(116)といずれも大幅増加。共通テスト利用方式では、以前から実施されてきた＜共テ＞が1,853人(120)の大幅増加、実施2年目の＜共テ併用＞が1,305人(112)の増加だった。

＜一般方式＞

- 文(131)は、大幅増加。学科別では、5学科全てが増加。特にフランス文(277)は＜全学部＞の募集人員増もあり、約2.8倍の激増。
- 総合文化政策(96)は、＜全学部＞のみの募集だがやや減少。＜全学部＞は2018年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 法(244)は、＜全学部＞のみの募集だが約2.4倍の激増。(ヒューマンライツ)の新設の影響が大きいが、これを除いた(法)＜全学部＞(168)のみでも激増で、2年連続大幅増加。
- 国際政治経済(144)は、＜全学部＞のみの募集だが大幅増加で、＜全学部＞のみで2年連続減少の反動が要因。学科別では、3学科のいずれも増加だが、特に(国際コミュニケーション)(173)は激増、(国際政治)(152)も50%以上の大幅増加。
- 経済(101)は、前年度増加の反動はなく前年度並。学科別では、(現代経済デザイン)(140)は大幅増加で3年連続増加。一方で、(経済)(93)は前年度増加の反動でやや減少と2学科で対照的。
- 経営(191)は、＜全学部＞のみの募集だが前年度大幅減少の反動で激増。＜全学部＞は2019年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(経営)(200)は倍増、(マーケティング)(174)も激増。
- 社会情報(149)は、＜全学部＞のみの募集だが＜全学部＞の4年連続減少の反動で大幅増加。方式別でも、文系型の＜全学部A＞(144)、理系型の(全学部B)(156)のいずれも大幅増加。
- コミュニティ人間科学(213)は、＜全学部＞のみの募集だが倍増以上。＜全学部＞は新設2年目の2020年度以降、3年連続増加。
- 教育人間科学(92)は、＜全学部＞のみの募集だが減少。前年度ほぼ倍増だった反動が見られた。学科別では、(心理)(102)は前年度倍増以上だった反動は見られなかったが、(教育)(85)は前年度激増の反動で大幅減少と対照的。
- 地球社会共生(135)は、＜全学部＞のみの募集だが大幅増加で2年連続増加。
- 理工(124)は、＜個別A＞と＜全学部＞での募集だが大幅増加。方式別では、系統への人気の高まりもあって、＜個別A＞(119)は大幅増加、＜全学部＞(151)は50%を超える大幅増加。学科別では、7学科全てが増加。(数理サイエンス)(113)は増加、(情報テクノロジー)(103)はやや増加、これらの学科は人気の高い系統だが高難易度への慎重な出願で比較的增加率は低かった。他の5学科はいずれも大幅増加で、(物理科学)は50%を超える大幅増加。

＜共通テスト利用方式＞

- 文(131)**は、大幅増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(107)はやや増加、＜共テ＞(178)は3年連続減少の反動で激増。学科別では、フランス文(275)は＜共テ併用・個別A＞で共テの国語を削減した負担減もあって2.7倍以上の激増。(史学)(139)も大幅増加。
- 総合文化政策(109)**は、増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(100)は前年度並、＜共テ＞(128)は前年度減少の反動で大幅増加。
- 法(118)**は、大幅増加。ただし、新設の(ヒューマンライツ)を除いた(法)(82)のみでは大幅減少。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(115)は大幅増加だが、(法)(78)のみでは大幅減少。＜共テ＞(122)は前年度減少の反動で大幅増加だが、(法)(88)のみでは減少。
- 国際政治経済(114)**は、増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(134)は大幅増加、＜共テ＞(98)は微減だが3年連続減少。学科別では、(国際コミュニケーション)(161)の激増が目立った。
- 経済(108)**は、＜共テ＞のみを実施。増加だが、2年連続大幅減少の反動は小さかった。学科別では、(現代経済デザイン)(186)は一部の方式の廃止などもあって2年連続70%以上の激減だった反動で激増。
- 経営(108)**は、増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(102)は前年度並、＜共テ＞(118)は2年連続大幅増加。学科別では、マーケティング(112)は増加、(経営)(108)はやや増加。
- 社会情報(118)**は、大幅増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(112)は増加、＜共テ＞(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- コミュニティ人間科学(81)**は、前年度より＜共テ＞および＜共テ併用＞を導入。学部全体では大幅減少。方式別では、＜共テ併用＞(88)は減少、＜共テ＞(73)は大幅減少。
- 教育人間科学(99)**は、前年度並。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(141)は大幅増加、＜共テ＞(79)は大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。学科別では、心理(117)が大幅増加に対して、(教育)(90)は減少と対照的。
- 地球社会共生(146)**は、大幅増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(184)は激増、＜共テ＞(124)は大幅増加で2年連続増加。
- 理工(118)**は、大幅増加。方式別では、実施2年目の＜共テ併用＞(111)は増加、＜共テ＞(121)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(化学・生命科学)(99)の微減を除いた6学科は増加、特に改組2年目の(物理科学)(205)は倍増以上。